

西国巡礼慈悲の道

西国第十八番 紫雲山 頂法寺(六角堂)

観音信仰

貫主 池坊専永



観世音菩薩に対する信仰は古く飛鳥時代に始まり、平安・鎌倉時代に盛大となって現代まで続いています。

観音様は、あらゆる災難に遭った時、それを信仰する人々の前に現れ救済するという誓願（法華経普門品）により多くの人々の信仰を集め親しまれてきました。

観音様への功德に対する信仰は時代とともに広ま

り、具体的なものとなります。所願成就、病氣平癒・

除災招福など偉大な力をあらわされるようになると、優美で素朴な聖観音像（一面二臂）ではそのお力を現わしきれません。

そこで、十一面観音、千手観音、如意輪観音など、多くの顔や手を持つことにより、強い能力を現わす観音様が諸経文に説かれ、これらの諸像が制作されるようになりました。

現在の西国三十三所観音霊場の全ての寺院に観音様が奉られています。各寺によって信仰の内容は異なります。各寺の成立やその地方の人々の信仰のあり方、霊験の伝えも様々で、観音様の功德は祈る人の心に応じて現われるものと考えられています。

六角堂の本尊は、寺伝によると聖徳太子の念持仏であった如意輪観音様で、5・5センチの小像とされています。創建は六世紀の終わりごろと伝えられますが、平安時代になると有力貴族や庶民の信仰を集め、公家の日記にも六角堂参詣、参籠の事が数多く記されています。病氣平癒、叙位、安産などの祈願が多

く、高倉天皇に入内した平徳子（建礼門院）が祈願の功德によって皇子を安産したとあります。

また鎌倉時代には、親鸞聖人が比叡山を下りて六角堂へ籠り、夢告を得て後に浄土真宗を開かれたといいます。このように時代に応じて信仰のあり方は大きく変化してきました。

現代は科学万能の時代ですが、現代社会の精神状況は不安に満ち溢れています。病にかかっている状態と言えます。現代の観音信仰は、この病を治す示唆を与え得るものでありたいと願っています。

西国第十八番

ろっかくどうちようほうじ
紫雲山 六角堂頂法寺(六角堂) 単立

御本尊／六臂如意輪観世音菩薩 開基／聖徳太子

わがおもう こころのうちは むつのかど
ただまろかれと いのるなりけり

✳ 主な年中行事 ✳

- 1月1日 修正会
 1月5日 初生け式
 1月18日 初観音
 2月下旬 太子祭
 4月8日 花まつり
 4月中旬 春のいけばな展
 6月30日 道祖妹子祭
 7月下旬 唐崎明神例祭
 11月中旬 旧七夕会
 (池坊全国華道展・華道先哲物故者追悼法要)
 12月18日 しまい観音

観音風光

◆お寺から参拝者へのメッセージ

小野妹子（専務）は太子の教えに従い朝夕宝前に花を供え、代々の住職はこれを伝えいけ花の名手が輩出した。日本のいけばな発祥の地と呼ばれる所以である。池のほとりに住持の寺坊があったことから「池坊」と呼ばれる。

ご詠歌の意味

考えてみれば、私の心の中にはとげとげとした感情や意識が芽生えることがあります。観世音菩薩さまのお導きにより、丸く穏やかでありたいとお祈りしています。

〒604-8134 京都市中京区六角通東洞院西入堂之前町248

TEL 075-221-2686／FAX 075-252-1325 <http://www.ikenobo.jp/rokkakudo/>

納経時間 午前8時～午後5時（開門時間午前6時～午後5時）

西国三十三所札所会ホームページ <http://www.saikoku33.gr.jp>

西国霊場にご参拝の時は納経帳や白衣を忘れずにご持参ください。2回目以降はご参拝の印として重ねて納経印をいただきますよう。